

# 「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業

“Opening a New World from the Classroom” Project, Hiroshima



## Onyang Yonghwa Middle School



## 東広島市立松賀中学校

### 交流の概要

学年：第1学年

単元名：Lesson 6 School Life in the U.S.A.  
(NEW CROWN English Series 1)

ねらい：互いの共通点を見つけるために、韓国と日本の文化、学校生活や関心をもっていることについて、伝え合いながら、会話を継続・発展させることができる。

“One more time.” 相手校が紹介する文化について、もう一回言ってもらおうようにお願いしました。

見えるかな？タブレットで作成したスライドを見せて分かりやすく伝えました。



### 大切にしたこと

- ・同じ人とだけでなく様々な人と交流をさせるため、時間を決めてグループをローテーションさせて、各グループ15分ずつ2回の交流を設定した。
- ・質問の仕方ややり取りのヒントをまとめた「お助けシート」を用意し、会話が継続するようにした。
- ・最初に笑顔で挨拶したり、相手の話すことに相づちを打ったりするなど、オンラインでコミュニケーションを取る際に大切なことを交流の前に全体で確認した。
- ・生徒が積極的に交流できるように、テーマは生徒自身に考えさせて交流を実施した。
- ・相手が知りたいことは何か、相手意識を働かせてスライドを作成させたり、事前に画面共有をしながらデジタル機器の操作方法を練習させた。

### 生徒の声

- ・英語で韓国の文化や、学校生活を知ることができた。他の国の人も、相手の名前や趣味を尋ね合って、英語でつながることができた。また機会があったらもっとレベルアップした英語で話したい。
- ・韓国との国際交流を終えて、普段使わない言語で話すことの楽しさや、色々な単語の意味について知ることができた。英語に関しての関心も深まった。英語で質問をしたり、答えたりする力も上がった。また交流をしたい。

### 交流を終えて

### s先生の声

- ・積極的に、楽しそうに会話をする生徒の姿を見ることができて嬉しく感じた。
- ・楽しんで会話をしていたため、次は話題をさらに深掘りができるよう指導したい。
- ・回数を重ねるごとに生徒たちが積極的に会話を続けようとする姿が増えた。
- ・生徒たちが意欲的に英語で話すことができるようになったと感じている。
- ・夏休み等を使って事前に接続テストをしたため、当日円滑に交流を進めることができた。
- ・当日の接続等のトラブルに対応するため、生徒同士だけでなく教員同士が連絡できるように端末を接続しておけばよかった。

### 活動内容：

#### ①自己紹介

事前にCanvaのスライドや画用紙を用意し、それらを用いて自分の名前、広島について、好きなことや食べ物などについて伝え合った。韓国の生徒の中には、日本のアニメが好きな生徒が多く、好きなアニメの話で会話が深まっているグループが多かった。

#### ②学校生活について紹介

事前にGoogleスライドを用意し、スライドを見せながら、互いの学校生活について伝え合った。生徒たちはグループごとにテーマ（給食、部活、授業など）を決め、5分程度で紹介し合った。韓国の校舎の説明を聞き、日本よりも充実した施設に驚いている様子が見られた。

#### ③文化について紹介

事前にGoogleスライドを用意し、スライドを見せながら、互いの国の文化について伝え合った。学校生活と同様にグループごとにテーマ（和食、アニメ、建物など）を決め、5分程度で紹介し合った。韓国の文化に関する説明を聞き、K-popなどの日本でも人気のあるものや、伝統衣装についても興味をもつことができた。

#### ④Free Conversation

互いに質問する際に、やり取りのヒントをまとめた「お助けシート」を参考にした。好きなものや有名なもの、日常生活に関すること等について質問したり答えたりしながら交流した。

≪交流方法：Google Meet≫